

原水爆禁止2014年世界大会・科学者集会

核兵器なき世界 原発なき社会を

福島から訴える

- 日 時： 2014年8月1日(金) 10:00~16:30
- 会 場： 福島グリーンパレス (福島駅西口駅前)
- 参加費： 会員・一般 1000円、 院生・学生 500円
- 主 催： 原水爆禁止2014年世界大会・科学者集会実行委員会

「原水爆禁止2014年世界大会・科学者集会」を、東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地である福島県で開くことになりました。この集会が、あらためて「核兵器なき世界・原発なき社会」の実現に向けた広汎な科学者の運動を飛躍的に進めるものと期待しています。

原発事故から3年半が過ぎようとしていますが、未だに14万人近くが県内外への避難生活が続いており、その生活の苛酷さは、全国の震災関連死・関連自殺の半数以上を福島県が占めていることにも示されています。突如として、平和で穏やかな生活を強制的に剥奪され、地域社会及び個人の生活の復興の見通しすら立たない理不尽な被害は、原発事故被害の特性でもあります。

未だ原発事故の収束がなく、その原因調査のないまま、「エネルギー基本計画」が策定され、全国の原発の再稼働が急速に進められていることに、被災地福島県の住民としては、怒りを抑えることはできません。

これに並行して、従来の政府見解でも憲法9条の下では認められないとしてきた「集団的自衛権」の行使を、憲法解釈を変更して、強引に進めようとしています。立憲主義への無謀な挑戦ですが、とりわけ核大国であるアメリカとの共同行動を目標にしているが故に、憲法9条で禁止されてきた戦争遂行に突入し、かつ核戦争のお先棒を担ぐ危険性が現実のものとなって来ています。

このような「核兵器をなくす」、「原発をなくす」運動に対する、全面的な攻撃が展開されてきているとき、科学者としての責任を強く感ぜざるを得ません。

原発事故で避難生活を送っている方々から、原発の「安全神話」を生みだした責任について、事業者・政府とともに、科学者一般も問われ、一科学者として居たたまれない状況におかれることも少なくありません。一科学者としては良心的な研究活動を遂行しつつも、少なくとも、強大な攻撃を跳ね返す科学者運動の力をさらに強化することの必要性を痛感します。

全国の研究者のみなさん、学生のみなさん、市民のみなさん、平和のために核兵器も原発もない社会をめざして、大いに語り合いましょう。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

2014年5月

原水爆禁止 2014 年世界大会・科学者集会実行委員会
委員長 今野順夫(日本科学者会議 福島支部、福島大学元学長)

●集会コンセプト

原水爆禁止運動は人類を核兵器・核被害の恐怖から解放し、安全で平和な世界を実現することを目的として活動を進めてきた。しかし、東日本大震災にともなう東京電力福島第一原子力発電所の事故は広範な地域を放射性物質で汚染し、人々の健康と安心・安全・安寧な生活を奪い去った。

私たちは核兵器のみならず、原子力発電所の事故および使用済核燃料の処理にともなう高レベル放射性廃棄物等の核廃棄物が人類の平和的生存を脅かすものであるとの認識を新たにし、原発の廃絶にも取り組まなければならない。とくに、原発廃止の声が高まる中で、日本が「核抑止力」を持つために原発の維持が必要との従来の主張が強調されていること、すなわち、原発が核兵器保有能力と深くかかわることに留意する必要がある。

これは原発の存在意義が、いわゆる「核の平和利用」の範ちゅうに留まらず、核兵器保有能力の維持にあることを示すものであり、核兵器に反対する私たちは、核兵器保有能力の放棄をも課題としなければならない。

今回、原水爆禁止 2014 年世界大会・科学者集会を被災地―被曝地―である福島で開催するにあたっては、原子力発電所の事故の実態とそれが地域社会に与えた影響にも光を当て、チェルノブイリの教訓なども活かしながら福島再生および核兵器・原発のない平和な社会を建設するための方向性を打ち出したい。

●プログラム概要（詳細は2ndサーキュラーにてご報告します。）

1. 核と人類は共存できない(報告者:大久保賢一弁護士/日本反核法律家協会事務局長)
2. 被曝と健康問題(報告者: 齋藤紀/福島医療生協わたり病院医師)
3. 沖縄と福島を結ぶもの―日本の安全保障政策と地方自治・住民の人権―
(報告者: 亀山統一/琉球大学助教・日本科学者会議常任幹事)
4. 被災者の生活と復興(報告者: 山川充夫/福島大学特命教授)
5. 青森県における核燃反対運動(報告者: 大坪正一/弘前大学教授)
6. 原発・核のない社会(外国人報告)
7. 総合討論

●集会の進め方

- ・分科会形式は取らず、すべて全体会で行います。
- ・「総合討論」での会場からの発言(3分以内でお願いします)をご希望の方は、「参加申込書」に必要事項を記入してご提出ください。なお、時間の都合で発言できない場合もあります。

●参加申し込み・参加費

- ・「参加申込書」に必要事項を記入して、下記の申し込み先までご送付ください。当日の参加も受け付けますが、会場準備のため、事前申し込みにご協力ください。
- ・参加費は、当日、受付でいただきます。

●集会参加申し込み・問い合わせ先

原水爆禁止 2014 年世界大会・科学者集会実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階 日本科学者会議 気付

TEL:03-3812-1472

FAX:03-3813-2363

e-mail: mail (アット) jsa.gr.jp

原水爆禁止 2014年 世界大会・科学者集会参加申込書

氏名：	勤務先・所属団体など
連絡先 住所：〒	
TEL:	e-mail :
会場から発言される場合、そのテーマなどをご記入ください。	
専門分野：	備考：

●**エクスカーション**

プレイベントとして、**2014年7月31日(木)**にエクスカーションを予定しています。

10時～19時頃、福島駅西口 → 飯舘村 → 南相馬市(原町区・小高区) → 福島駅西口 のコースを予定しています。定員は40人です。(事前申込制)

●**前泊**

前泊を希望される方には会場となる福島グリーンパレスの客室を確保しています(シングル40、ツイン17)。

●**エクスカーション・前泊申し込み**

エクスカーションや前泊を希望される方は、7月1日(火)までに、下記まで郵便またはメールにてご連絡ください。その際、①氏名、②住所、③電話番号、④メールアドレス、⑤宿泊を希望する場合は喫煙/禁煙、シングル/ツインの別、ツインを希望される場合はどなたと同室を希望されるか、をご記入ください。(エクスカーションのみ、前泊のみの申し込みも可。エクスカーション参加料は5000円、宿泊料は素泊まり1泊5800円を予定。

申し込み・問い合わせ(集会の参加申し込みとは宛先が違いますのでご注意ください。)

初澤敏生 〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学人間発達文化学類

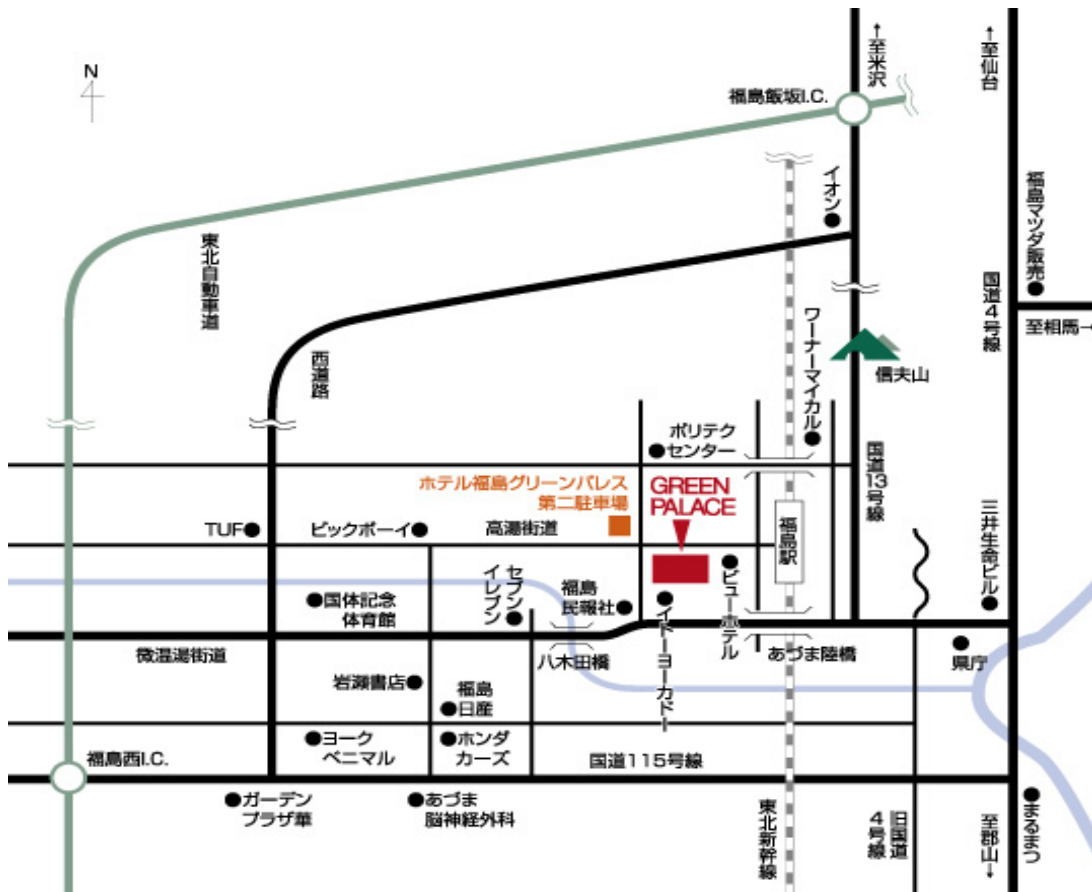
hatsuzaw (アット) educ.fukushima-u.ac.jp

●会場のご案内

会場： 福島グリーンパレス（福島駅西口駅前 徒歩2分）

〒960-8068 福島市太田町13番53号 TEL 024-533-1171 FAX 024-533-1198

<http://www.fukushimagp.com/index.html>



●実行委員会 (◎実行委員長、○事務局長： 今後の変更・補充あり)

泉谷眞実（日本科学者会議青森支部・農業経済学）、伊藤昌太（同福島支部前代表幹事・外国史）、伊藤宏之（日本科学者会議研究企画部長・同福島支部常任幹事・政治学）、井原聡（同宮城支部・科学史・技術史・科学技術政策論）、岡田努（同福島支部常任幹事・科学教育）、河村洋（日本科学者会議社会的活動部長・リハビリテーション工学）、後藤康夫（同福島支部代表幹事・政治経済学）、◎今野順夫（同福島支部・法学、福島大学元学長）、斎藤毅（同福島支部常任幹事・社会科教育）、佐野孝治（同福島支部事務局長・経済学）、荘司信行（同福島支部常任幹事・政治経済学）、富田哲（同福島支部常任幹事・法学）、二階堂次男（福島県原水協代表）、○初澤敏生（同福島支部・地理学）、藤原一哉（同福島支部・経済学）、山崎誠（同宮城支部事務局長・水産増殖学）（5月19日現在）